

研修名 発達支援リーダー研修 第6回 【支援編】

平成27年12月10日(木) 15:00~17:30

講演「保護者との面接技術と保護者支援」

講師 馬見塚 珠生 氏

1 愛着と子ども虐待、虐待予防

1) 健全な愛着(アタッチメント)を育む重要性

① アタッチメント(愛着)とは・・・

- ・ attachment=くっつく
- ・ 危険や不安を感じる状態、ネガティブな情動状態のとき、大きくて強い存在にくっついて安心を得ようとする行動。
- ・ 生存に欠かせない本能的な、人間が持っている生存本能の一つ。
- ・ 親子の間の not=愛情とは区別する。

② アタッチメントと探索

- ・ 不安な時にくっついて安心したい本能。
限られた時間の中で最優先すべきは、子どもが落ち着かないときに応じること。楽しく遊ばなくてもいい、泣いたらくっつくようにしよう。

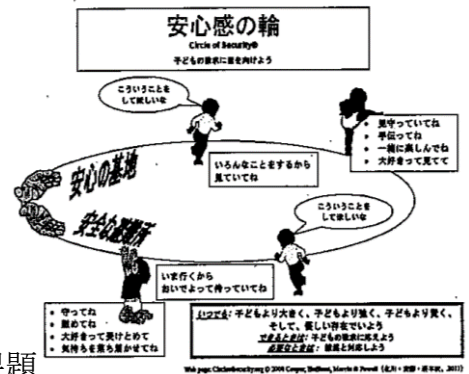
・ 探索

十分に安心すると子どもは、探索行動に行き好奇心を発揮したり、いろいろなことを自分でやってみたがったりする、環境に働きかける本能。

・ 安心感の輪

アタッチメントと探索を描いたもの。

子どもに対して親として一番必要な機能は、安心させてあげて、安全な避難所になり、安心の基地になる。安心感の輪の両手。両手の役割が大切。安心感の輪をくるくる回るたびに、親子の絆は深まる。



③ アタッチメント形成は乳幼児期に最重要発達課題

・ アタッチメント形成は・・・

対人関係の基礎

情動のコントロールの基盤—自らを慰める力

社会性の核になる—禁じられているときの歯止めになるのが重要な他者の内在化

トラウマからの防波堤—つらい体験を乗り越える時の支えはアタッチメント対象の存在

④ アタッチメントタイプ

- ・ 安定型—安心感の輪を素直に出せる。全体の60%
- ・ 回避型—親が安全な避難場所となるのを拒否してしまう。
- ・ アンビバレント型—親の不安が高すぎて子どもの行動を止めてしまう。

- ・未組織化・無方向型—被虐待児や感情障害の親、親の精神状態が悪く不安定。戻りたくても戻る先が安定していない。

2) 子ども虐待が及ぼす問題、後遺症

① アタッチメント障害

- ・反応性愛着障害=反応性アタッチメント症（重度の子は自閉症のような症状）
- ・脱抑制的対人交流症（だれかれかまわず愛着行動示す。）
- ・虐待的養育者と一緒にいると、リラックスして安心感を得ることができず脳内の大脳辺縁系の警戒警報が出っぱなしの状態。

② 小児期の虐待が脳に及ぼす影響

発達障害を持っている子どもたちは虐待のリスクが高く、虐待を受けた子どもたちは発達障害様の行動パターンを示すことがあり、悪循環。虐待的な関わりというのは、子どもの健全な脳発達にある種のゆがみをおこす。

- ・身体的虐待—情動コントロールなどを司る部位の発達が有意に阻害される。
- ・心理的虐待—言語野・聴覚野の発達が有意に阻害される。
- ・性的虐待—視覚野の発達が有意に阻害される。
- ・ネグレクト—右脳と左脳の繋ぎ部分の発達が有意に阻害される。

③ 子ども虐待の後遺症

愛着の形成が障害される。慢性的なトラウマを受ける。トラウマからくる様々な障害が子どもたちに生じてしまう。

3) 子どもの虐待対応の枠組み（フレームワーク）

- ・健全なアタッチメントを一組でも、一人の子どもでもしっかりと育て、親子関係をよくしてあげる。
- ・子どもを育てながらやはり親自身を一緒に育てていけるチャンネルを何とか見つけ、親自身も含めたケアが必要。
- ・常に安心と安全な存在がいるという事を、小さいときに経験することは大切。アタッチメント対象は一人でない、保育園に来たら安心だ・安全だ・ホッとする、その感覚を子どもにいかにつまえてあげられるか、アタッチメント問題を抱えている子どもにまず安全な避難所になる。
- ・親にも親のためのアタッチメント対象が必要。

2 感想

保護者に対して想像力豊かに、妄想的に出ている現象・保護者のしている行動・言動から、裏側の背景を読んでいき保護者の頑張っておられる姿を認めてあげ、関わりを持ち、関わり続けていくことが大切だと思いました。また、安心感の輪の手が孤立化されないように、私たちも安心感の輪を支える大きな手になるのが役目じゃないのかなと思います。そして、安全・安心・ホッとするその感覚を子どもたちに伝えていける、安全な避難所になる事も大切だと感じました。

（記録 亀ヶ丘保育園 高見文子）